

ローラースキー競技運営ガイドライン(2022. 7. 7)

(赤字追記)

F I S ローラースキー競技規程と(公財)全日本スキー連盟スキー競技規則の最新版に基づき、安全にローラースキー競技会を実施することを目的に、ローラースキー競技運営ガイドラインを策定する。

I. ローラースキーの機種

1. フリー・テクニク用ローラースキー

長 さ : 前輪の車軸から後輪の車軸まで 530mm 以上なければならない。

車輪径 : 車輪の直径は 100mm 以下でなければならない。

2. クラシカル・テクニク用ローラースキー

長 さ : 前輪の車軸から後輪の車軸まで 700mm 以上でなければならない。

車輪径 : 車輪の直径は 75mm 以下でなければならない。

車輪幅 : 車輪の幅は 35mm 以上でなければならない。

3. ローラースキーの長さの許容範囲は、フリー、クラシカルと±5mmである。

II. ポールの先端に関して(バスケット/リングの装着義務)

ポールの先端には、安全な硬質プラスチック製の保護材(カップ)を装着しなければならない。(冬ポール用カップ可)

FIS ローラースキー競技規則ルール改正(2022年 7月 1日から適用)

396.2.6 クロスカントリースキー用ポールを用いなければならない。

また、ポールの先端には、直径 30mm 以上の安全な硬質プラスチック製の保護材を使用しなければならない。このプロテクション材は、金属製チップ位置の最大 45mm 上方へ設置しなければならない。(バスケットリングの装着義務)

III. クラシカル・ローラースキー・テクニク用ポールの長さ(上限)について

長 さ : 身長+2cmの83%を超えないこと。

身長とは平面に、ブーツを履いた状態で立ち、無帽で頭頂部から測る。ポールの長さは、石突の先端から、ストラップの付け根の上の部分まで測る。

IV. 安全対策

1. クラシカル用ローラースキーは、ストッパーが付いている機種であること。

2. 使用過多で極端に摩耗した小さなタイヤのローラースキーは、使用禁止とする。
3. 市販されているローラースキーであり形態は購入時の状態であること。
改造したローラースキーは使用禁止とする。
4. ヘルメット、手袋、サングラスの着用を義務付ける。肘サポーター、膝サポーターを着用することを推奨する。

V. 大会における機種決定時の注意事項

1. コースが狭い、下り坂や急カーブがあるなど、危険と判断される場合や参加選手の経済面を考慮し（特に、ジュニア選手等）、フリー・テックニックの競技であっても「クラシカル用の機種」に限定して実施してもよい。
その場合は、必ず大会要項に記載すること。
2. 大会でのテクニック・競技種目等は、担当TDの指導を受け大会組織委員会の責任で決定すること。